りんごプロジェクト

NPO法人ピープルデザイン研究所

2024年度活動報告

りんご
プロジェクト
RINGO project.

プロジェクトの背景

＜調査内容＞平成29年度から障害者の生涯を通じた学習活動の充実と、それによる共生社会の実現を目標として、実態の把握・分析に基づいた政策の企画・立案につなげていくため、基礎的なデータ収集、学習機会の質的向上に向けた総合的な調査・研究を実施

＜参照リンク＞
総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1419306.htm

PEOPLE DESIGN INSTITUTE

2019年　文部科学省 × NPOピープルデザイン研究所

超福祉の学校プロジェクトで偶然出会った仲間たち

（目的：障害のある人の生涯学習の場をつくる）

文部科学省による
「障害者の生涯学習」に関する調査から見えてきた課題点

①学びの場やプログラムがない

②一緒に学習する友人、仲間がいない

③学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない

2020年の超福祉の学校プロジェクトからはじまった（障害のある人の生涯学習の場をつくるプロジェクト）

超福祉の学校@SHIBUYA
NPOピープルデザイン研究所×文科省

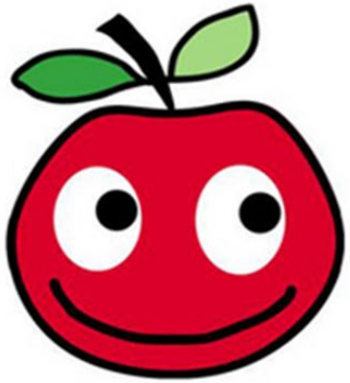
りんご
プロジェクト
RINGO project.

ホームページ

りんごプロジェクトのメンバーたち

1993年
スウェーデンで始まった取り組み

「りんごの棚」
特別なニーズのある子供たちを
公共図書館サービスの対象とするための一手段



世界図書館情報会議（WLIC）2010年　イェーテボリィ
スウェーデン国立録音点字図書館（TPB）
ジェニー・ニルソン（Jenny Nilsson）

学びの基礎となる情報を得る力が継続して必要
公共図書館は誰もが無料で利用できる
生涯学習の場である

読書バリアフリー法
（2019年6月施行）

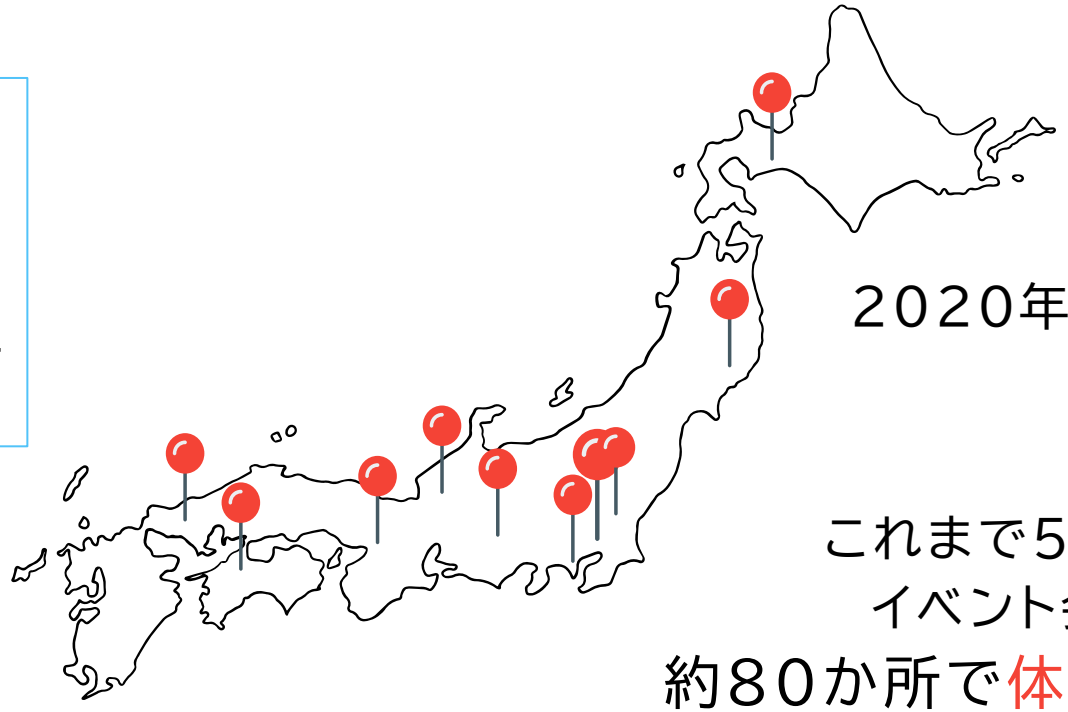
障害の有無に関わらず、全ての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律です。
さまざまな障害のある方が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指しています。

読書に困難のある人のためのいろいろなカタチの本があるのに多くの人が知らない

↓

アクセシブルな図書の体験会で実際にふれる機会をつくる

アクセシブルな図書
- 点字がついた本
- 大活字本
- LLブック
- マルチメディアデイジー
- 布の絵本など



2020年から活動をはじめて

これまで5年間で図書館、学校、
イベント会場、福祉施設など
約80か所で体験会や研修会をおこなう

日本国内での活動の広がり（問い合わせは沖縄から北海道まで全国から）

りんごプロジェクトの活動目的

①読書や図書館利用に困難のある人々が、自分の読みやすさを見つけ

生涯学習につながるきっかけをつくること

（読書に困難のある人の人生の充実へ）

②多様なニーズに対応し、公平性や公共性の高い情報拠点としての

図書館をもっと増やすこと

（図書館をよりインクルーシブな空間へ）

活動実績

時期　2024年5月20日～2025年3月10日

体験会　19回（学校、図書館、イベント会場、福祉施設）

研修会　6か所（宮城・大阪・栃木・埼玉・福井・徳島）

メディア（テレビ、ラジオ、新聞）　露出　6媒体　17回

雑誌記事（寄稿、インタビュー記事掲載）　　14冊

書籍監修　「りんごの棚と読書バリアフリー」全3巻　フレーベル館

パンフレット増刷1万部

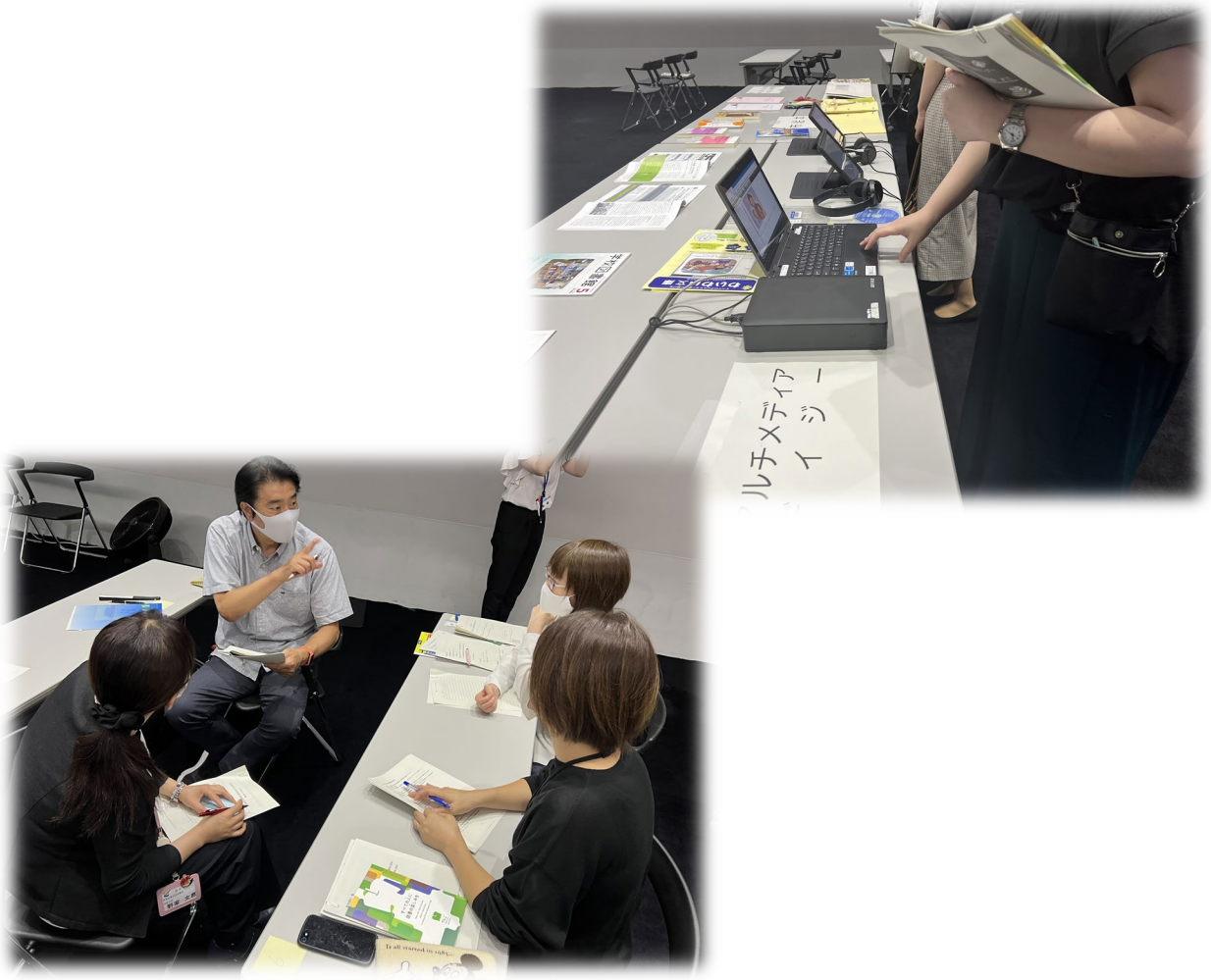
６月２４日横浜市立矢向中学校（1年生）　120人

タイトル「誰も取り残さない読書の世界
～読書に困難のある人のための様々な読書スタイル～」

人権講演会

1年生教室の廊下に臨時の「りんごの棚」設置

7月19日宮城県立図書館での研修会　会場17名/Web19名



９月４日横浜市立青木小学校（５年生）での体験会

青木小学校での体験会の様子と同校の「りんごの棚」は書籍に掲載された

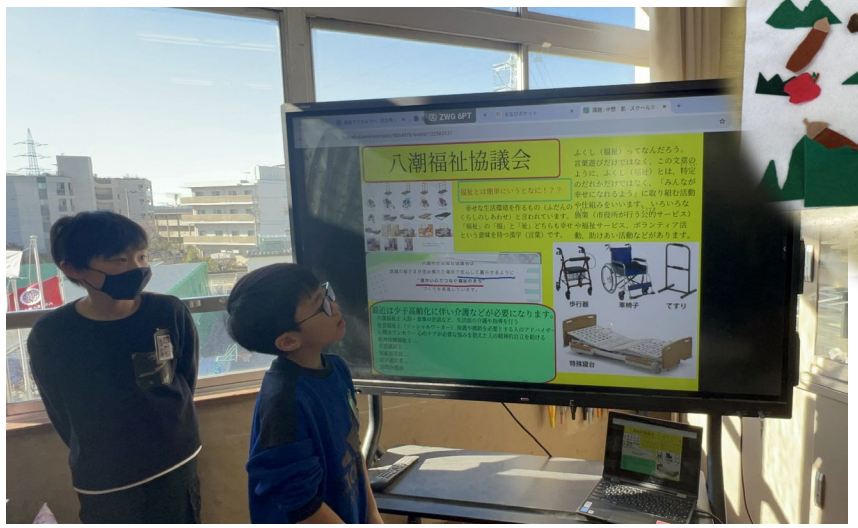
９月１９日栃木県読書活動推進フォーラム講師　参加３８名

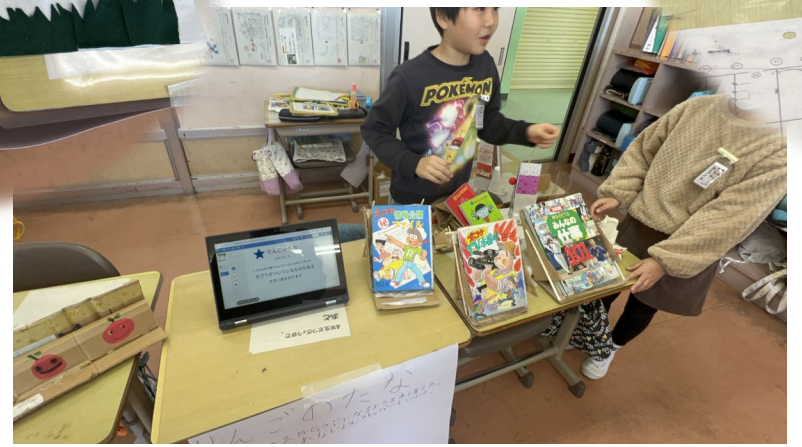
主催：栃木県教育委員会

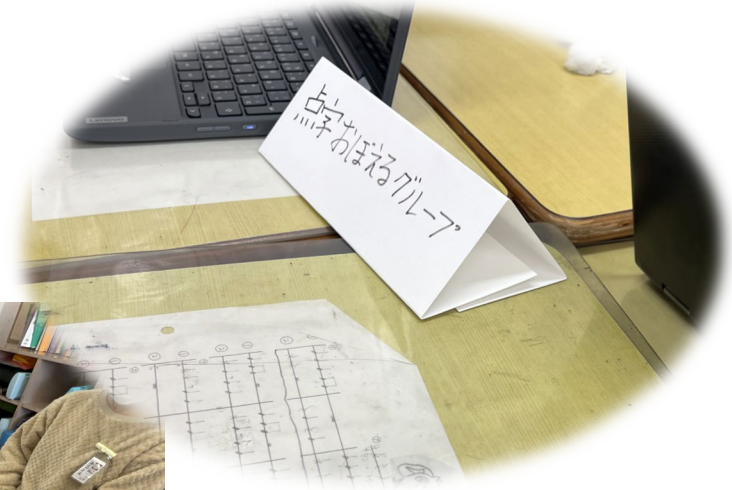
9月27日八潮市立大瀬小学校（4年生）での体験会　130名

八潮市立大瀬小学校での読書バリアフリーの取り組み（総合の時間）
1月31日に発表会

4クラスで各グループがそれぞれのテーマを決めて、それについて調べたことなどを発表、
りんごプロジェクトや超福祉の話から、それぞれがいろんなことに興味を持ち、よく調べ資料を作成していた。







布絵本や本棚を製作したグループ
点字プリンタを先生が借りてきて、点字について調べ、点字を実際に打ってみる体験をしたグループなどもあった。

イベント会場での体験会

10月5，6日　ダイバーシティ・パークin新宿
　ブース来客約100名

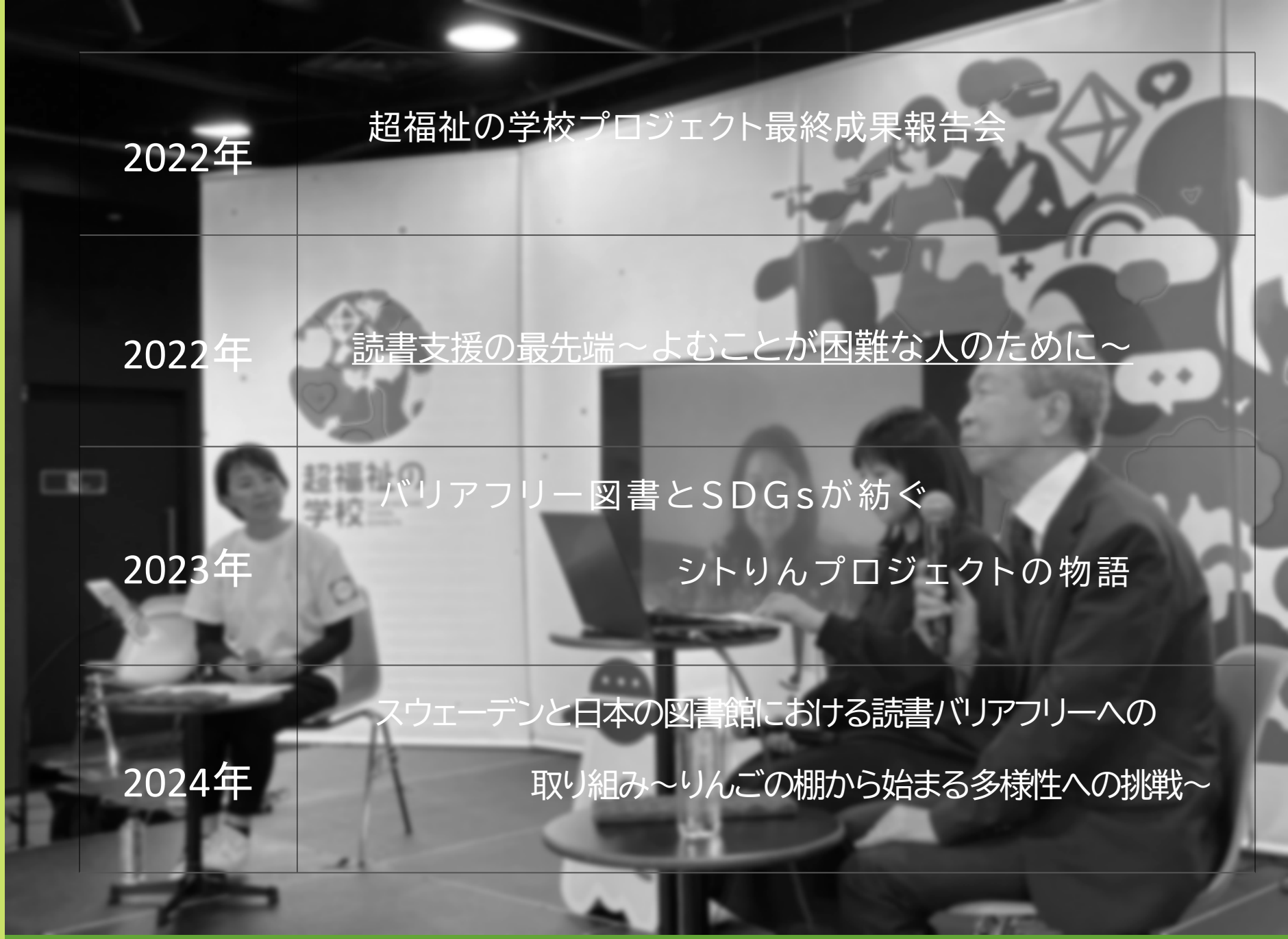
11月17日　松戸読書バリアフリー展示会
参加者約100名

10月25日

超福祉の学校 SUPER WELFARE SCHOOL @SHIBUYA

りんごプロジェクトのシンポジウムの内容

障害の有無にかかわらず、共に学び生きる共生社会の実現を目指すイベント。従来の教育や特別支援教育、障害福祉の枠に収まらない、多種多様な方々がシンポジウムに登壇する



2022年	超福祉の学校プロジェクト最終成果報告会
2022年	読書支援の最先端～よむことが困難な人のために～
2023年	バリアフリー図書とSDGsが紡ぐ シトりんプロジェクトの物語
2024年	スウェーデンと日本の図書館における読書バリアフリーへの 取り組み～りんごの棚から始まる多様性への挑戦～

図書館総合展＠パシフィコ横浜（2024/11/5.6.7）のべ300名

埼玉福祉会&りんごプロジェクト

アクセシブルな図書館づくりに！図書館に関わる皆さんと一緒に「りんごの棚」を広めたい！

11月9日渋谷区立図書館での体験会

参加区民約30名

5月17日におこなった横浜市立幸ケ谷小学校での体験会が2学期に地域活動に発展した事例

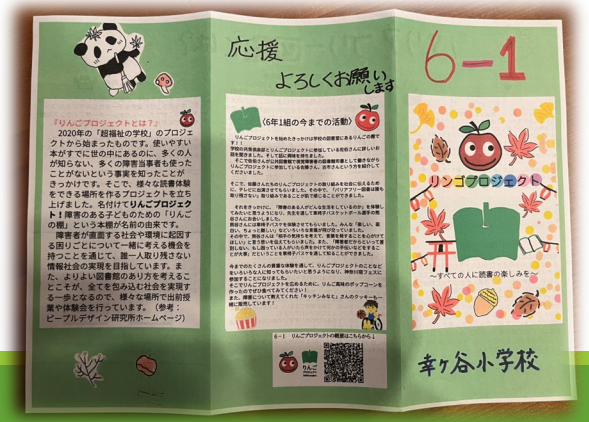
公共図書館から39冊
借りたものと
りんごの棚にあった本
約50冊

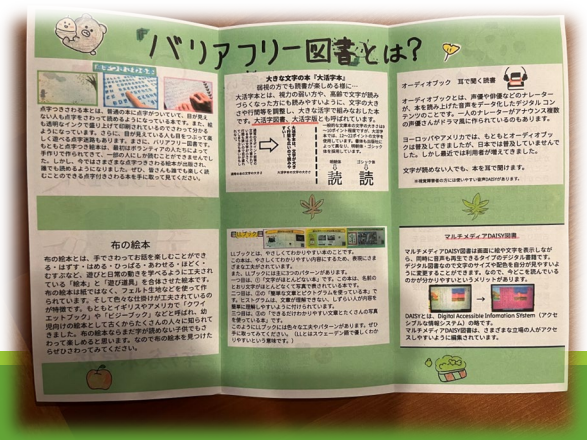
東海道宿場町

神奈川宿フェスに出展
2024/11/24

りんご味のポップコーン

子どもたちが作ったパンフレット





コミュニティハウス
チェリーハウス

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙
タウンニュース

会社案内 | IR情報 | 事

レアリアで地元を

ホーム | 横浜 | 川崎 | 相模原・東京多摩 | 県央

神奈川区版　公開：2024年12月19日

幸ケ谷小６年１組

コミハに本を寄贈

”りんごの棚”を設置

教育

幸ケ谷小学校６年１組は12月11日、幸ケ谷公園コミュニティハウス（チェリーハウス）に本を寄贈した。

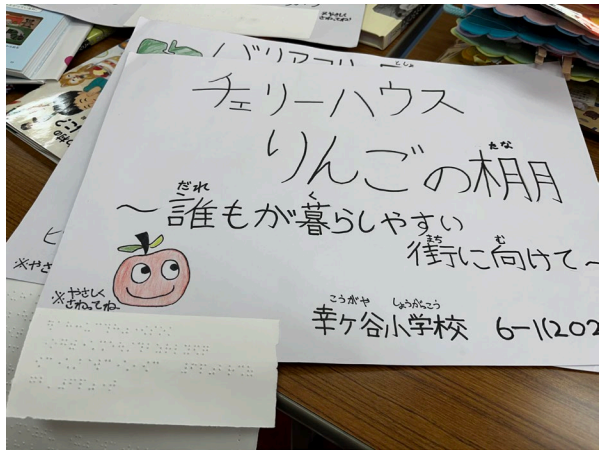
６年１組の児童たち（同校提供）

これは児童たちが今年４月から取り組んでいる「りんごプロジェクト」の活動の一環。同プロジェクトは、障害の有無に関わらず誰もが楽しめる本を届けるもの。学校図書館の司書らから紹介され活動を開始した。

6年1組の児童が神奈川フェスで募金活動

売り上げの一部を地域へ
残りをりんごプロジェクトへ

この寄付活動が
タウンニュースで
取り上げられる



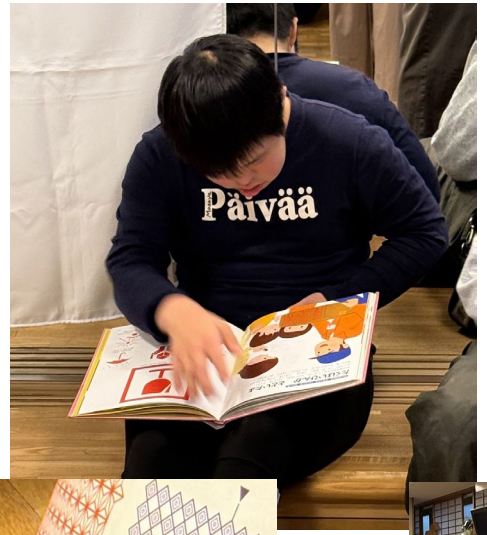
りんごの棚完成！

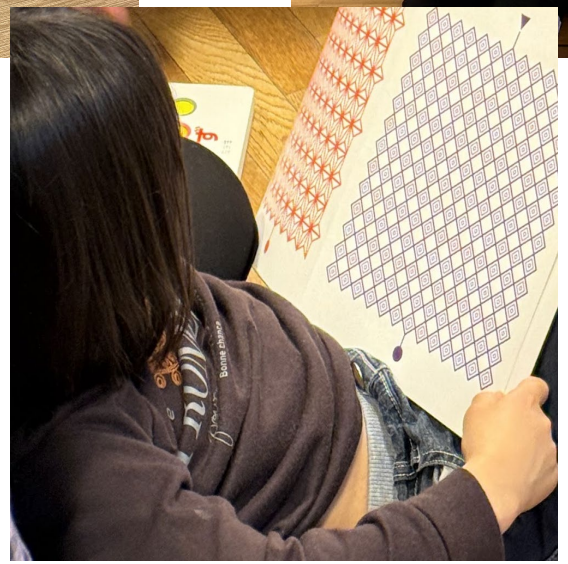
大学での学生主体の取り組みにアドバイザーとして参加

筑波大学

島根県立大学

1月21日放課後等デイサービス「エニィタイム」での体験会　30名





２月７日 令和6年度徳島県読書バリアフリー推進事業
「第2回公立図書館等職員研修会」講師・事例発表

会場参加　27名、
オンライン参加　23名、
配信　2名、計50名

メディア露出

河北新聞7月18日付け

読書のバリアフリー着々

法成立5年

■大活字やパソコン活用

■点字・録音図書貸し出し

2019年6月に「読書バリアフリー法」が成立してから5年が過ぎた。視覚障害などを抱える人が読書を楽しむための環境整備は、どこまで進んでいるのか。

NPO法人「ピープルデザイン研究所」(東京)は、全国の学校や図書館などで障害のある人も利用しやすい本を取りそろえる「りんごの棚」の設置を呼びかけている。20年から続く「りんごプロジェクト」で、スタッフが小中高校や大学、特別支援学校のほか、福祉施設やイベント会場などに出向き、出前授業や体験会を行う。

点字本や大活字本、パソコンで音声や文字を視聴する「マルチメディアデイジー」、振り仮名や絵文字のある「LL(エルエル)ブック」などを紹介し、読書環境の改善につなげてもらっている。

プロジェクトの発起人で全盲の図書館司書、佐藤聖一さんは「視覚障害や発達障害、生まれつき読み書きが難しい子どもたちに、さまざまな本を紹介します。盲学校の先生や図書館司書でも、こうした図書を知らない人がいるので、障害者が読書や学びを諦めることのないよう普及啓発に努めています」と説明する。

同研究所理事でダウン症と知的障害のある息子を持つ古市理代さんは「障害者

教育家庭新聞

2025年（令和7年） 1月1日 水曜日 第2265号

発行所＝教育家庭新聞社 〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8 TEL:03(3864)8241代 FAX:03(3864)8245 郵便振替口座 1309-53693 Eメール kks@kknews.co.jp https://www.kknews.co.jp/ 創刊 昭和36年7月 ©教育家庭新聞社 1部 480円

新春特別号

習基盤で学びを深める

学校の生成AI活用 基本概念や考え方をまとめ

「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインVer2.0（案）」がまとまった。最終的な整理がなされ、間もなく公開される。学校現場における生成AIの適切な利活用を実現する、という基本姿勢の下、生成AIとは何か、学習や校務で利活用すべき理由、それに向けた留意点が示されている。活用事例としては校務・学習別に記載。前書きには「現時点の知見を可能な限り具体的に示した」とある。

本ガイドライン策定にあたり検討を進めてきた初等中等教育段階における生成AIの利活用に関する検討会議の最終会議(12月20日)で委員は、「読みやすいガイドラインができた」「生成AIを知るためのよいイントロダクションになっている」「世界にも誇れる内容になった」「影響のみを議論するのではなく技術の本質を議論することが前提。ガイドライン策

低学年では書く活動も重視している

GAIA LABO ACTIVE LEARNING 全国の先生や児童生徒の声を多数掲載! 2700人以上の声を掲載中!

ノートPCや液晶タブレット、360°カメラ、「ロボットで始める深層学習 TensorFlow×自動走行×SPIKEプライムセット」などを調達。

アンケート機能のほか、特定のお知らせを常に表示する機能や保護者からの返信利用の有無を学校が選択できることなどを条件とした。

BOOK REVIEW

りんごの棚と読書バリアフリー 1 自分にあった読み方ってなんだろう?

子供たちの理解と関心・実践に向けて

小学校中学年以上の子供たちに向けて、読書バリアフリーとは何か、りんごの棚について紹介する全3巻シリーズ。

『1 自分にあった読み方ってなんだろう?』では、目が見えない、見えにくい、本が持てない、手に入れにくい等、さまざまな「読み」について考える。日本で2019年に施行された「読書バリアフリー法」、スウェーデン発祥の「りんごの棚」の歴史、「りんごプロジェクト」の活動も紹介。

続巻『2 読みやすい本ってなんだろう?』では大活字本、LLブック、点字の本、布の絵本、DAISY資料や映像資料、多言語資料、電子書籍、読書がしやすくなる道具や図書館サービスなどを取り上げる。

『3 読みやすい本を広めよう!』(1月25日発売予定)では、さまざまなバリアフリー図書を並べた、りんごの棚を実際に作ることを提案。子供たち自らがチャレンジできるよう、小学校の実践事例をもとにした手順、設置後の活動例を紹介。取組を通して、自分らしい読書スタイルやインクルーシブ社会へ、関心を持つきっかけにもなる。

りんごプロジェクト／監修
フレーベル館
縦260mm×横210mm 36頁
3740円

読んでみよう! もしものときの防災ブックガイド 小中学生のための500冊

防災教育の一助になる児童書を中心に

小中学生や教員、保護者が、災害・防災・減災について学ぶための図書をカテゴリ別に記載したブックガイド。基本的な書誌情報と内容紹介を収録。2011年以降に刊行された図書を中心に、児童生徒が自分で災害や防災について学ぶ児童書や絵本が多く選定されており、一部は書影も掲載し分かりやすくした。

カテゴリは大きく「自然災害について」「防災について」「災害に関する読み物」の3つ。「自然災害について」では、地震・津波のしくみ、もしも地震が来たら、火山のしくみ、報道・メディア、写真絵本、等々の項目が並ぶ。また「防災について」は、絵本・あそびでまなぶ防災、防災のためのまちづくり、サバイバル、等々。「防災に関する読み物」では、体験談・ドキュメント・読み物、絵本、さらに、阪神・淡路大震災、東日本大震災で分類している。

2024年1月1日には能登半島地震が発生。日本に住む私たちには、災害を知り、被害を少しでも軽減するための学びが必要不可欠だ。本書で紹介される一冊一冊が、防災教育の一助となる。

舩木伸江／監修
日外アソシエーツ
A5判 220頁
2970円

ふしぎな魔法パズル

おもしろいほどキミの直感を裏切る!

幸ケ谷小6年1組

コミハに本を寄贈

"りんごの棚"を設置

幸ケ谷小学校6年1組は12月11日、幸ケ谷公園コミュニティハウス(チェリーハウス)に本を寄贈した。

これは児童たちが今年4月から取り組んでいる「りんごプロジェクト」の活動の一環。同プロジェクトは、障害の有無に関わらず誰もが楽しめる本を届けるもの。学校図書館の司書から紹介され活動を開始した。

1年を通して、車いすバスケの体験や福祉施設への訪問、視覚障害者との交流などを通じて障害への理解を深めた児童たち。11月の「神奈川宿フェスタ」では、"りんご味"のポップコーンの販売などでプロジェクトを啓発し、募金活動も行った。

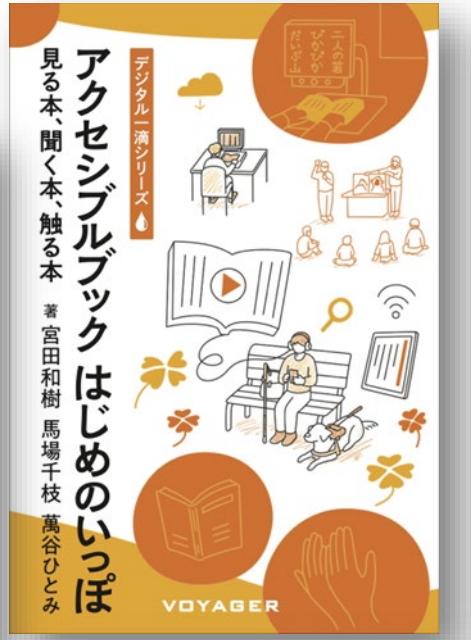
今回は、フェスタでの売上や募金をもとに、約15冊の本を寄贈した。これらは、視覚障害者らでも楽しめる本をまとめた「りんごの棚」に配架される。参加した児童のひとり榎本梓乃さんは、「フェスタでたくさんの人にプロジェクトを知ってもらうことができてよかった。地域の人たちの協力のおかげで、りんごの棚ができて嬉しい」と笑顔で振り返る。今後も、点字のある本や触って楽しめる本などを2、3冊ほど追加で送る予定という。

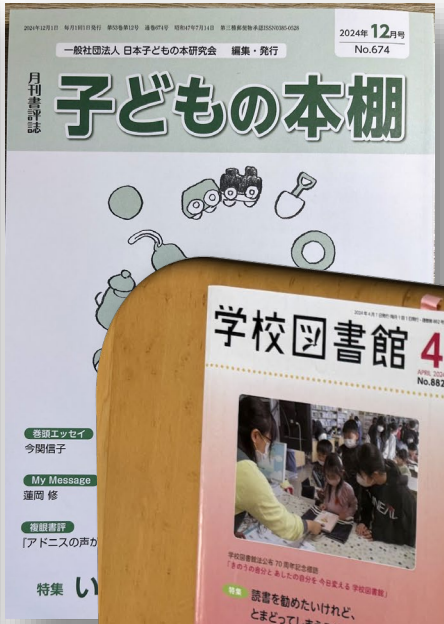
プロジェクトを通して「様々な体験や出会いを経て、児童たちの障害者という言葉へのイメージが大きく変わった」と話すのは、担任の細谷邦弘教諭。「『誰もが暮らしやすいまちづくり』に向けて自分がどんなことができるのかについて考えることができた。今後はそのための行動を示し、継続していけることを期待したい」と子どもたちの成長を見守った。

6年1組の児童たち(同校提供)

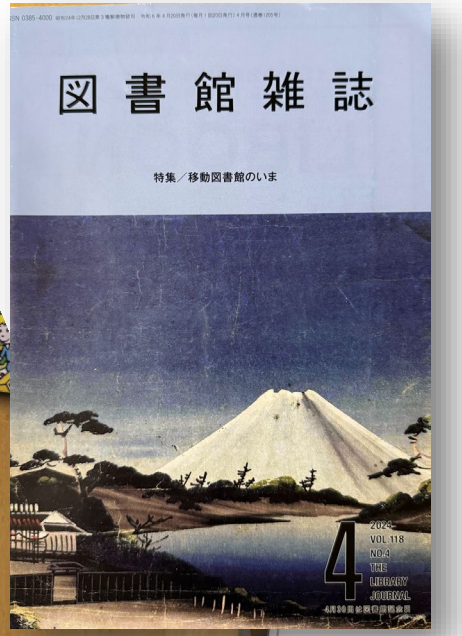
書籍

THE BIG ISSUE
vol.487
特集 読書バリアフリー
スペシャルインタビュー ビル・ナイ


デジタル一滴シリーズ
アクセシブルブック はじめのいっぽ
見る本、聞く本、触る本
著 宮田和樹 馬場千枝 萬谷ひとみ
VOYAGER


2024年12月号
No.674
一般社団法人 日本子どもの本研究会 編集・発行
月刊書評誌
子どもの本棚
巻頭エッセイ
今関信子
My Message
蓮岡 修
複眼書評
特集

図書館用品総合カタログ


図書館雑誌
特集／移動図書館のいま
4
VOL.118
NO.4
THE LIBRARY JOURNAL

学校図書館 4
No.882
特集 読書を勧めたいけれど、とまどってしまうことQ&A
学校図書館 6
No.884
特集 今こそ、学校図書館の重要性を！
学校図書館 8
AUGUST 2024
No.886
特集 デジタル社会に対応した読書環境の整備
学校図書館 9
No.887
特集 読書バリアフリー はじめの一歩
学校図書館 11
No.889
特集 子どもの読書の現状（第69回学校読書調査報告）
学校図書館 12
No.890
特集 2024 学校図書館調査報告
学校図書館 2
No.892
特集1 子どもにおくるメッセージ
特集2 読書感想文コンクール入賞作品

Any slide
vol. 02
特集 元こども、どう感じた？

Akachand
月刊 赤ちゃんと
赤ちゃん からだ 健康
最新子育て&健康情報
ウソ・ホント
すこやか赤ちゃん
お口のケアと虫歯予防
Mama's Care
産後の休息のとり方
パパの健康相談室
痛風予備軍
パパボンド
生協の商品開発担当のパパ
特集
ぐっち夫婦さんに教わる フリージング離乳食

フレーベル館より、りんごプロジェクト監修の本が発売　全3巻

2024年9月発行　**1月重版決定！**

2024年11月発行

2025年1月発行

学校図書館に広がる
りんごの棚

［りんごの棚］

①自分に合った読書スタイルを見つける入口

→学習、情報入手手段の獲得

②健常児にとってはさまざまな読書方法を知る機会

→いろいろあって当たり前を体験

③学校司書にとっては読書に困難のある子を発見する場

→他の教員や特別支援コーディネーターとの連携

日本では障害者のためだけの棚ではなく（読書の）多様性にふれる棚 として発展している

りんごプロジェクト　今後の展望

- 日本全国の図書館に「りんごの棚」を設置
- 市民対象の体験会やイベント実施
- 公共図書館と学校図書館との連携
- 福祉施設と図書館との連携

よむ、みる、さわる、きく。
いろんなカタチの図書を、誰もが楽しめる日常へ

りんごプロジェクト

NPO法人ピープルデザイン研究所